

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

山梨学院大学（以下、「本学」という。）は、令和7（2025）年4月1日より収容定員を変更する。法学部法学科は、入学定員を240名から60名減員して180名とし、収容定員を720名とする。経営学部経営学科は、入学定員を330名から30名増員して360名とし、収容定員を1,440名とする。健康栄養学部管理栄養学科は、第3年次の編入学定員を10名から10名減員して0名とし、収容定員を160名とする。国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科は、入学定員を50名から30名増員して80名とし、かつ第3年次の編入学定員を0名から10名増員して10名とし、収容定員を340名とする。本学全体の入学定員は860名、第3年次の編入学定員は10名、収容定員は3,460名であり、この収容定員変更の前後で本学全体の入学定員、第3年次の編入学定員、収容定員の増減は伴わない。

【本学全体の入学定員・収容定員の変更計画】

（単位：名）

区 分	開設年度	現 状			変更計画			現状と計画の差		
		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
法 学 部 法 学 科	昭和 37 年度	240	—	960	180	—	720	△60	±0	△240
経 営 学 部 経 営 学 科	昭和 40 年度	330	—	1,320	360	—	1,440	+30	±0	+120
健康栄養学部 管理栄養学科	平成 22 年度	40	10 (第3年次)	180	40	—	160	±0	△10	△20
国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科	平成 27 年度	50	—	200	80	10 (第3年次)	340	+30	±10	+140
スポーツ科学部 スポーツ科学科	平成 28 年度	200	—	800	200	—	800	±0	±0	±0
合 計		860	10	3,460	860	10	3,460	±0	±0	±0

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学は、「広い国際的視野を持ち 実践的な知識と技能を備え 創造力と行動力を発揮して 理想の未来を創る人材を育成する」を教育理念として掲げ、「たくましく生きる力」を育成する」を教育目標に設定し、教育活動をおこなっている。

その基本理念に掲げる、理想の未来を創る人材の育成を推進するため、その教育水準の向上とその環境の整備を図りつつ、多様な学生の受入れを積極的におこない、大学としての責務や地域社会からの要請に応えるべく、改善や向上の方策の検討を継続しておこなっている。このため、今回の収容定員の変更は必要不可欠であると考えます。

まず、法学部法学科は、「法、政治、行政及び隣接領域に関する教育研究活動を通じて、広い国際的視野を持ち実践的な知識と技能を備え、創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成すること」を目的とし、「この目的のため、ルールを創造的に活用し、問題解決に積極的に取り組むことができる能力を培うことで、たくましく生きる力を育成すること」を教育目標としている。

この目的と教育目標のもと、令和6（2024）年度は入学定員を充足する入学者を集めており、この入学者数については、学部の教育計画が履行できるように、教員配置や施設設備の整備をおこなっており、十分な教育効果を上げている。しかし、これまで以上に、教員一人あたりに対する学生

数を適切に定め、加えてそれぞれの授業の質を向上させ、少人数教員による課題解決型の授業を充実させるなど、学部の目的や教育目標に沿った、より効果的な教育効果を達成することを最優先に考え、法学部法学科の入学定員を、240名から60名減員して180名とする。

次に、経営学部経営学科は、「経営学、マーケティング、会計学、経済学等に関する教育研究活動を通じて、広い国際的視野を持ち実践的な知識と技能を備え、創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成すること」を目的とし、「この目的のため、自他や社会が抱える未解決の課題に果敢に挑戦することを通して、たくましく生きる力を育成すること」を教育目標としている。

この目的と教育目標のもと、令和6（2024）年度は入学定員を充足する入学者を集めており、この入学者数については、学部の教育計画が履行できるように、教員配置や施設設備の整備をおこなっており、十分な教育効果を上げている。このうえで、それぞれの授業の質を向上させ、より効果的な教育効果を達成すると共に、国際的な視野を持った経営学分野の学びに対する高校生や留学生をはじめとした社会からの要請に応えるため、経営学部経営学科の入学定員を、330名から30名増員して360名とする。

次に、健康栄養学部管理栄養学科は、「栄養学、食品学、栄養マネジメント、給食経営管理に関する教育研究活動を通じて、広い国際的視野を持ち実践的な知識と技能を備え、創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成すること」を目的とし、「この目的のため、健康の保持増進・疾病の予防と改善を目指す栄養管理遂行能力と、地域社会の食生活と健康の向上に貢献する資質を養うことで、たくましく生きる力を育成すること」を教育目標としている。

この目的と教育目標のもと、令和6（2024）年度は入学定員を若干下回る入学者となっているが、学部の教育計画が履行できるように、教員配置や施設設備の整備をおこなっており、十分な教育効果を上げている。このうえで、日本における短期大学の学校数の減少という社会情勢により、短期大学からの編入学という需要の大幅な減少を踏まえて、第3年次の編入学定員を、10名から10名減員して0名とする。

次に、国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科は、「人文教養、社会科学、及び数的推理等に関する教育研究活動を通じて、広い国際的視野を持ち実践的な知識と技能を備え、創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成すること」を目的とし、「この目的のため、絶え間なく変化する社会に適応し、責任感と協働・連携の意識を持って社会に貢献するためのスキル、能力、特性を養うことで、たくましく生きる力を育成すること」を教育目標としている。

この目的と教育目標のもと、令和6（2024）年度は前年度9月の入学者と合わせて入学定員を充足する入学者を集めており、この入学者数については、学部の教育計画が履行できるように、教員配置や施設設備の整備をおこなっており、十分な教育効果を上げている。このうえで、学部設置時に構想していた80名という入学定員の充足に十分な環境が整ったと判断し、国際的な教養教育に対する世界からの要請に確実に応えるため、国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の入学定員を、50名から30名増員して80名とする。また、海外からの留学生の編入学を広く受入れるために、第3年次の編入学定員を0名から10名増員して10名とする。

以上のように、本学における教育理念や教育目標や、各学部学科の目的や教育目標を達成するため、各学部学科における教育の質的な保証と改革・改善を常に念頭に置き、地域社会や国際社会に広く貢献できる人材の育成を実施するため、それぞれの現状に即した形での定員変更をおこなうものである。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程について

本学は教学企画室及びカリキュラム委員会を中心に各学部学科における教育課程の整備と充実に努めており、特に大学の学位授与方針に応じた4つの科目体系を確立し、学生の「学びの領域」を整理して、社会接続型のカリキュラムの更なる充実を推進している。

大学の学位授与方針

DP1 「実践的な知識と技能」を備え「創造力と行動力」を発揮して社会に貢献する基盤が身についている。

DP2 多様な背景を持つ人たちと、母語や母語以外の言語で、目的に応じた意思疎通ができる。

DP3 自ら目標を設定し、達成するまでやり抜こうとする姿勢を持つ。

DP4 自己を理解し、他者との良好な関係性を構築しながら、自らの思考と行動を決定できる。

法学部法学科では、学部専攻科目である「法学」、「政治学」に加え、「経営学」、「マーケティング」、「会計学」、「経済学」や、一般教養分野の人文・社会・自然科目を広く学ぶことができる科目体系を編成し、加えて、社会において必須となる言語スキルや ICT スキル等のスキル系科目の修得も促すような、実践的な知識と技能が修得できるカリキュラムとする。これらの科目に加えて、国際(DP2)、キャリア形成支援(DP3)、ヒューマンスキル(DP4)の各分野の体系も備えた、理想の未来を創る人材の育成に努める。

経営学部経営学科では、学部専攻科目である「経営学」、「マーケティング」、「会計学」、「経済学」に加え、「法学」、「政治学」や、一般教養分野の人文・社会・自然科目を広く学ぶことができる科目体系を編成し、加えて、社会において必須となる言語スキルや ICT スキル等のスキル系科目の修得も促すような、実践的な知識と技能が修得できるカリキュラムとする。これらの科目に加えて、国際(DP2)、キャリア形成支援(DP3)、ヒューマンスキル(DP4)の各分野の体系も備えた、理想の未来を創る人材の育成に努める。

健康栄養学部管理栄養学科では、学部専攻科目である「健康栄養学」や、一般教養分野の人文・社会・自然科目を広く学ぶことができる科目体系を編成し、加えて、社会において必須となる言語スキルや ICT スキル等のスキル系科目の修得も促すような、実践的な知識と技能が修得できるカリキュラムとする。これらの科目に加えて、国際(DP2)、キャリア形成支援(DP3)、ヒューマンスキル(DP4)の各分野の体系も備えた、理想の未来を創る人材の育成に努める。特に、管理栄養士養成施設として、栄養学、食品学、栄養マネジメント、給食経営管理に関するカリキュラムの整備をおこない、管理栄養士として国民の健康栄養管理を担う人材の育成に努める。

国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科では、日本人学生には「アカデミック英語」、外国人留学生には「日本語研究」の言語学習を基礎として、リベラルアーツ教育による国際的な教養の基盤を身につけ、「グローバルビジネス・経営学」、「政治学」、「心理学」、「インターディシプリナリー・データ・サイエンス」、「人文教養」、「日本研究」の中からメジャーを選択し、広い国際的視野を持ち、実践的な知識と技能を備えた、理想の未来を創る人材の育成に努める。

(イ) 教育方法及び履修指導方法について

本学は各学部学科における教育方法及び履修指導方法の整備と充実に努めており、今回の収容定員変更についても、その内容が十分に担保される範囲内での計画である。

法学部法学科の卒業要件としては、学部専攻科目である「法学」、「政治学」から 62 単位の修得を含め、124 単位以上の修得としている。この中で、基礎的な科目やスキル系科目を中心に、履修指定科目を設置し、特に新入生の履修が円滑に進むような設計としている。

経営学部経営学科の卒業要件としては、学部専攻科目である「経営学」、「マーケティング」、「会計学」、「経済学」から 62 単位の修得を含め、124 単位以上の修得としている。この中で、基礎的な科目やスキル系科目を中心に、履修指定科目を設置し、特に新入生の履修が円滑に進むような設計としている。

健康栄養学部管理栄養学科の卒業要件としては、学部専攻科目である「健康栄養学」から 104 単位の修得を含め、124 単位以上の修得としている。この中で、管理栄養士としての必修科目を含めた体系的な学修をおこないながら、あわせて基礎的な科目やスキル系科目の履修も可能としている。

国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の卒業要件としては、「アカデミック英語」や「日本語研究」の言語学習、リベラルアーツの基礎となる「基幹教育」、グローバルビジネス・経営学、「政治学」、「心理学」、「インターディシプリナリー・データ・サイエンス」、「人文教養」、「日本研究」のメジャー科目、「数的推理・自然科学」、「保健体育」の科目群からそれぞれ定められた単

位数の修得を含め、124 単位以上の修得としている。

なお、各学部学科における履修指導については、新入生ガイダンスや在学生ガイダンスにおいて、各学部学科の特色を説明するとともに、学生便覧やカリキュラムガイド、カリキュラムマップ等の提示をおこない、かつシラバスにおける到達目標の明示を踏まえて、今後のキャリア選択につながるような履修計画を立てることを指導している。

(ウ) 教員組織について

教員組織は、本届出の「基本計画書」にも記載のとおり、入学定員を減員する法学部法学科、健康栄養学部管理栄養学科及び入学定員を増員する経営学部経営学科、国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科、並びに本学全体として、既に収容定員に応じた必要な教員組織が担保されている。ただし、本学は令和6（2024）年の段階においては、大学設置基準の改正の経過措置を適用しているため、「基幹教員」ではなく「専任教員」としている。

この教員組織は、各学部において大学設置基準上の必要専任教員数の基準を上回る数を配置している。各学部学科においては授与する学位の専攻分野に係る専門領域を担当する教員、各教学センターにおいては、共通教育センターにおいては幅広い学識豊かな人間形成をおこなうための教養教育を担う教員、グローバル・ラーニング・センターにおいては外国語コミュニケーション科目を担当する教員、カレッジスポーツセンターにおいては保健体育を担う教員、教職センターにおいては教職課程を担当する教員により構成されており、各学部の教育課程を運営するために必要な専任教員が確保されている。

また、S/T比率についても、特に法学部の定員を減員することにより、より適正な数値に改めることができるため、これまで以上の教育効果を達成することができるものと期待している。ただし、全学的なS/T比率の検証については、カリキュラム改革の根幹となるため、今後も検討を継続していくこととする。

【本学全体の教員組織】（2025 年度予定）（単位：名）

区 分	S/T 比率	常勤教員						非常勤 教員
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
法 学 部 法 学 部	42.35	16	1	0	0	17	0	13
経 営 学 部 経 営 学 部	80.00	11	3	5	0	19	0	9
健 康 栄 養 学 部 管 理 栄 養 学 部	16.00	4	3	3	0	10	5	4
国 際 リ ベ ラ ル ア ー ツ 学 部 国 際 リ ベ ラ ル ア ー ツ 学 部	13.08	9	8	9	0	26	0	5
ス ポ ー ツ 科 学 部 ス ポ ー ツ 科 学 部	42.11	10	4	3	2	19	0	14
共 通 教 育 セ ン タ ー	-	5	4	1	0	10	0	21
グ ロー バ ル ・ ラ ー ニ ン グ ・ セ ン タ ー	-	3	6	3	0	12	0	13
カ レ ッ ジ ス ポ ー ツ セ ン タ ー	-	8	3	14	0	25	0	2
教 職 セ ン タ ー	-	1	1	2	0	4	0	8
合 計	-	67	33	40	2	142	5	89

(エ) 大学全体の施設・設備について

施設については、「基本計画書」の「校地等」欄、及び「校舎」欄にあるとおり、変更後の教育に支障のない面積を有している。

講義室及び演習室等については、法学部法学科、経営学部経営学科では基本的に共用しており、講義室にはプロジェクター等の視聴覚機器を設置し、視覚映像を活用した授業をおこなっている。加えて、アクティブ・ラーニング型の授業を展開できるような仕様の講義室も整備し、かつ教員がそれらの手法を積極的に取り入れられるようなファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会を定期的に開催し、学修者が能動的に学びに参加できるような教育をおこなっている。また、自習室については、時間外及び休日等においても一定の規則を設け利用可能としている。

健康栄養学部管理栄養学科においては、一部の講義型授業は、前述の法学部や経営学部と共用の教室を使用しているが、それ以外の実験や実習のための教室を管理栄養士養成施設の基準に沿って整備している。

国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科においては、学部専用の講義棟を設けており、少人数教育を充分におこなえる演習室や、日本研究、音楽、アート、化学実験等をおこなえるような多彩な施設設備を整備している。

コンピューター実習室等については、全学的なコンピューターリテラシー教育をはじめ、演習系科目、学部専攻科目、初年次の導入科目等におけるプレゼンテーションツール等を利用した科目に対応できるよう整備している。なお、本学においては、学生自身が私物の情報機器端末を持参する、いわゆるBYOD（Bring Your Own Device）を積極的に進めている。

図書館としては、法律、政治、経済、経営等の社会科学系から、情報、保育、家政学、スポーツ科学まで、複数の分野の資料を提供する総合図書館を設置している。建物は2階からなる開架閲覧スペースと5層からなる閉架書庫を備え、館内には、閲覧室（座席数494席）、グループ学習室、学習・談話室、リフレッシュスペース等を設けている。蔵書数は、各学部・学科の専門図書、一般教養図書、合冊製本雑誌など約33万冊、視聴覚資料約8千点であり、学術及び一般雑誌、紀要、新聞等の約400種の定期刊行物も収蔵している。また、国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の開設以来、洋書1万冊以上を追加し、英文学術論文データベースも整備されている。さらに、前述のほか各種学術データベースや電子ジャーナル、電子書籍等を導入し、オンライン利用を想定した教育及び研究環境の整備に努めている。開館時間は、授業期間中は午前9時から午後8時まで、土曜日と定期試験実施期間の日曜日、長期休暇中は午前9時30分から午後4時30分までである。

体育施設としては、キャンパス内に体育館及び武道館が設置され、各学部学科の体育実技の授業や課外活動の練習で利用されている。このほか、カレッジスポーツを推奨する本学は、各競技に応じた競技場・練習場やトレーニングルーム等を大学周辺に有している。

以上